



さい帯血バンクNow

第9号

http://www.j-cord.gr.jp/

新年度予算
大幅ダウン

総額 6億1750万円

昨年末に平成15年度政府予算案が発表になりました。さい帯血バンク関連の補助金は総額6億1750万円で、前年度の3分の2となり、3億1080万円の減額となりました。内容的には、これまでの予算とは大きく変化しているところもありますので、現在わかっている範囲で具体的な内容を速報します。この予算案は国会の審議を経て年度末に成立することになりますが、この額で確定するものと思われます。

●15年度さい帯血移植対策政府予算(案)

単位: 千円 (カッコ内は14年度)

さい帯血保存管理業務経費	499,400 (879,361)
ネットワーク運営会議費	7,314 (8,056)
さい帯血情報管理経費	50,790 (40,886)
ネットワーク体制再構築事業費	60,000 (0)
合計	617,504 (928,303)

保存数は63%減に

予算案で前年度比大幅減となっているところは、さい帯血の保存にかかわる経費で、8億7936万円から4億9940万円(43%減)となっています。これは、保存さい帯血数を8186個から3000個へと63%も減らすことが最も大きな要因です。しかしながら、この項目には各バンクの人件費も含まれており、これまで3人の非常勤職員が常勤に見直されます。

の8乗個)へと倍に引き上げることになります。これは、これまで保存してきたさい帯血の基準は、体重15kg以上の患者に移植できるさい帯血であったものを30kg以上にしようというものです。このため、採取してもこの基準に至らないさい帯血も増えるため、保存単価の見直しがされています。具体的には、5400個を採取し、そのうち4500個が検査対象になり、最終的な保存数として3000個になると見積もっています。

営会議費はネットワークとして様々なルールを作ったり、全国のさい帯血バンクが情報を共有するために不可欠な経費ですが、若干のマイナスとなっています。足りない分は自己資金でまかなってほしいということのようです。情報管理経費が1000万円ほど増えているのは、これまで1人しかいなかったネットワークの事務局職員を業務量増大により増員することになっています。

細胞数基準を倍増

また、次年度から保存さい帯血の有核細胞数の最低基準を、これまでの「3×10の8乗個」から「6×10

事務局職員増員へ

また、各さい帯血バンクのほかに日本さい帯血バンクネットワークへの補助金にも変化が見られます。運

新規の体制再構築事業費は単年度で、ネット上でさい帯血の移植申し込みができるようにするなど、コンピューターシステムの更新などのほか、さい帯血バンクの最新情報について、移植施設に対する説明・開催なども含まれています。

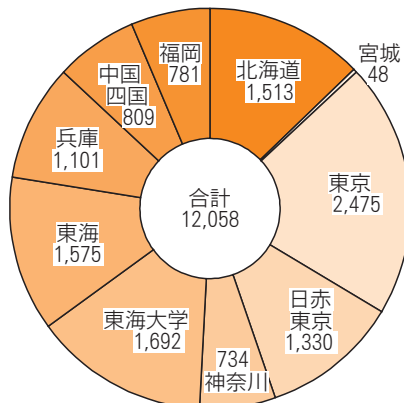
骨髄バンク大幅増

以上は厚生労働省臓器移植対策室の計上分ですが、このほかに健康局総務課計上分でさい帯血バンク設備として大型液体窒素タンクなどがメニュー化されています。現在、厚生科学審議会の造血幹細胞移植委員会の答申を待つ状況で、今回の予算は将来のデザインができる前の過渡的な色彩が強いのかもかもしれません。なお、造血幹細胞移植では骨髄バンク関連予算は12億3500万円と前年度比2億9800万円増と大幅アップです。

●各バンクの移植(供給)数

バンク名	～01年度	02年度	合計
北海道	104(105)	48(50)	152(155)
宮城	0(0)	1(1)	1(1)
東京	114(118)	25(25)	139(143)
日赤東京	30(33)	19(18)	49(51)
神奈川	61(62)	5(4)	66(66)
東海大学	64(66)	35(39)	99(105)
東海	107(108)	23(23)	130(131)
兵庫	91(97)	37(35)	128(132)
中国四国	12(13)	6(5)	18(18)
福岡	18(22)	7(5)	25(27)
合計	601(624)	206(205)	807(829)

●保存さい帯血の公開数



【注】①表とグラフのデータは、2002年12月末現在。②表の数字は、カッコ外が移植数、カッコ内が供給数。差があるのは各バンクに供給しても、移植に至らなかったケースがあるため

手記

さい帯血移植を受けて——
元気になりました

さい帯血バンクがあったからこそ、健康を取り戻すことができました——昨年9月の「日本さい帯血バンクネットワーク設立3周年記念全国大会」にパネリストとして参加した5人の患者さんと家族は、異口同音にこう語りました。第7号は写真中心でしたが、改めて手記を寄せていただきました。

「学ぶチャンス」も得る

藪本 美穂

大阪市西淀川区



大会で笑顔を見せる一家
闘病中の姉弟と、全国



私の子どもたちには誕生日が2回ずつあります。生まれた日、そして、さい帯血移植を受けた日です。

娘の彩椰は、生後6カ月の時に原因不明の高熱が1カ月間続き、病院を転々としました。現在かかっている病院で「血球貪食リンパ組織球増殖症」という100万人に一人の血液の難病だとわかりました。この病気は非遺伝性であるものは化学療法で治せますが、遺伝性の場合には骨髄移植をしないと助からないのです。非遺伝性か遺伝性かを調べる方法は今の医学ではないということでした。

私も主人も健康でしたし、幸い、彩椰は化学療法がよく効き、一時は大変元気になり、退院することができました。その時、私は二人目の子どもがおなかにいました。

家族にとって、おなかの子は希望でした。もしかすると、さい帯血を彩椰に使えるかも……きっと、神様が私たち家族にくださった天使だと思ひ、「和羽」と名付けました。

しかし、和羽は生後2カ月で発病し、子どもたちの病気は遺伝性であることが決定的となりました。おまけに、その直後、元気だった彩椰が再発してしまいました。

私の人生の中で最もつらい時でした。どんなに泣き叫んでも世の中にはどうにもならないことがあるのを

思い知らされました。自分が世界で一番不幸だと思っていました。

そんな時、主治医から「さい帯血がもらえそうだ」というお話があり、

1年の闘病生活で成長

工藤 寿子

千葉県印旛郡

私は2000年9月に急性リンパ性白血病と診断され入院しました。

医師からは、骨髄移植しかないと言われ、骨髄バンクにドナー登録をしました。ドナーを待ちながら、抗がん剤治療が続けられ、その間、何度もくじけそうになりましたが、家族、友人の励ましと勇気づけが、何度、私に希望を与えてくれたかわかりません。

入院して7カ月が過ぎたころ、ドナー候補者全員に断られた旨の報告を受けました。そんな折、さい帯血移植の話が持ち上がり、決断をするのですが、医師の話はとても厳しい内容で、「とにかくデータがないため未知で、やってみなくてはわからない」ということでした。

でも、確固たる決意で移植に臨むことを医師に伝え、さい帯血を移植することが決まりました。2001年7月10日に移植し、20日後生着が確認



平成9年9月に、彩椰は近畿で初めてさい帯血移植を受けました。経過は良好で、半年後、和羽もさい帯血をいただくことができました。

今では二人ともとても元気で、ほかの子どもと何一つ変わることなく生活をさせていただいています。

病院の先生や看護婦さん、さい帯血バンクのボランティアの皆さん、そして、さい帯血を提供してくださったお母さんとその赤ちゃん、すべての方に心から感謝しています。

私たち家族がいただいたのは、さい帯血という「生きるチャンス」だけではなく、人の心の温かさ、命の尊さ……などを「学ぶチャンス」も一緒にいただきました。

され、9月29日に晴れて退院することができました。

1年間の闘病生活の間に、メソメソしていた自分から、「病魔に負られない、絶対この病気に勝って、さい帯血医療を広めていくことが私の使命なんだ」と成長している自分がいました。

この病気になったことによって得るものは大きいものでした。人生観が変わりました。この病気がなければ、人の痛みもわからずに平々凡々な生活をし、そのまま一生を終えていたことでしょう。

これから移植を待つ患者、家族の方々へ、決して負けないでください。今は苦しい時かもしれませんが、苦しかったことはあとで無駄になりません。

医師は言います。「2割は医師の助けだけど、8割は患者さんのガンバリだ」と。断じて病魔に負けないでください。

最後に、私を支えてくださった家族、友人、医療関係者の方々、本当にありがとうございました。

6年目「再発心配なし」

娘の彩が2回目のクリスマスを迎えた1996年、2カ月ほど続いた風邪は、単に長引いているだけと軽い気持ちでいましたが、年が明けても症状が変わらず不安でした。



2月には解熱剤を使っても高熱が下がらず、大きな病院へ行きました。足のあざと高熱に医師は疑問を感じ、血液検査が行われました。結果は、「白血病の疑い」でした。

2月28日の夜中、「よりよい治療を行うため、明日、血液専門の病院に転院します」と言われました。そこでの診断結果はやはり急性骨髄性白血病でした。医師の話では、入院が1年、治る可能性は7割、移植しないと助からないということでした。

その日から彩の治療が始まりました。慣れないところからのストレスと薬などの影響で、次第に食欲がなくなりやせ細って髪が抜け始めました。「なぜうちの子が？ 何も悪いことしてないのに…」。15日後、無事、寛解を迎えました。

最初に「移植をしないと助からない」と言われてから4カ月後、骨髄バンクとさい帯血バンクの両方に登録しました。幸運なことにどちらにもHLAの型がありましたが、医師はさい帯血移植を勧めました。当時、日本では血縁者間では数例あったものの、非血縁者間ではまだ1例しかありませんでしたから、少し不安を抱えながらも、彩を助けてくれるならと医師にお任せしました。

8月7日、無菌室へ入りました。彩の状態が一番いい5日目の12日、さい帯血移植をしました。さい帯血の入ったシリンジをカテーテルから注入するだけで、10分ほどでした。

移植後、数日してから口いっぴいにできた口内炎で、食事どころかうがいさえ痛がりました。そのときが

根岸ひろみ

横浜市金沢区

彩は辛い日々でしたが、病院の方々が見てくださり助かりました。

17日間、ずっとゼロのままだった好中球の数が4個に上がり、これが500個にならないと無菌室を出ることができません。日に日に白血球と好中球の数が増え、34日目の9月10日、無菌室を出ました。

一般病棟へ戻り、精神的・肉体的にも落ち着きを見せ、食欲も出てきて体重も徐々に増えました。外出・外泊を何度か繰り返し、12月17日、

「娘」と新しい命生きる

石堂 晃紀

千葉県佐倉市

私が骨髄異形成症候群という病名を宣告されたのは、2000年2月のことでした。医師からは速やかに骨髄移植をする必要があるという説明でしたが、親族にも骨髄バンクにも、HLA一致のドナーがいませんでした。



結局、急性骨髄性白血病のプロトコルにしたがって化学療法がおこなわれ、なんとか寛解を得ることができました。8月には退院となり、以後3週間入院し、2週間自宅療養するというペースで、計9回の化学療法をおこないました。

ところが、化学療法も残り1回となった2001年5月、再発が確認されました。人事異動で交代した新しい主治医に、私は東大医科研でのさい帯血移植を希望しました。化学療法で2度、寛解導入をはかりましたが、果たせませんでした。

この時点で、医科研は主治医にさい帯血移植の適応はないという判断を伝えていたそうですが、私が主治医から伝えられたことは、「骨髄バンクに適合するドナーが出てきたので、さい帯血移植は中止する」という決定でした。しかし、私は主治医の説明に矛盾があることに気づき、骨髄バンクのステータスレポートを入手してドナー候補が実在しないという事実を突き止めました。

約9カ月の入院生活を無事に終え、彩は元気な姿で帰宅しました。移植後2年がたち彩に弟が生まれ、このとき私もさい帯血を提供しました。

今は背も伸び、外で遊び転ぶことにも心配せず外来の期間も徐々に延びました。彩もごく普通の女の子と何ら変わらず、次第に入院当時を忘れかけてきているようです。発病から5年目を終え、彩も1年生となり外来も年2回となりました。先日、医師より「再発の恐れはありません」と言われました。

8月、虎の門病院に転院することに成功し、母子間ミスマッチ末梢血幹移植に臨むことになりましたが、移植目前で母に提供を拒否されてしまいました。再度さい帯血移植に懸けるしかなくなったのですが、化学療法が功を奏して奇跡的に再び寛解に至ることができました。

医科研に再度さい帯血移植を依頼したのですが、度重なる化学療法によるダメージが心臓に蓄積して突然心不全に陥り、またもやさい帯血移植の適応はないという判断が下されました。それでも心機能が回復することに希望を託して時を待ち、2002年ようやく医科研に入院することができたのです。

ですから、移植が決定したときには、助かるかと助からないといったことはどうでもよくなっていて、「ここまでこぎつけることができた」という充実感でいっぱいだったことを覚えています。

「娘」が私のところにやってきたのは、2月28日のことでした。「娘」は、2000年6月5日生まれの女の子ですが、2年間冷凍になっていたので、実質上、生後9カ月です。「娘」と呼んでいるのは、さい帯血から私に移植された造血幹細胞のことです。現在2歳になっているはずのさい帯血ドナーの女の子に感謝し、「娘」とともに新しい命を生きる喜びをかみしめる毎日です。

費用対効果のデータ公表も

社会復帰した患者さん 計り知れない社会貢献



年頭所感

日本さい帯血バンクネットワーク

会長 齋藤 英彦

い状況であり、骨髄移植推進財団は基金の取り崩しという非常事態に至っています。

造血細胞移植の有用性は十分に認知されており、問題はコストの負担をどのようにするかであります。出所は医療保険、国庫補助金、寄付金、患者負担金以外にはないわけで、患者負担金はできるだけゼロにしたいのは当然です。

医療保険の適用や国庫補助金の増額は今まで努力してきましたが、頭打ちの状態です。この数年は骨髄とさい帯血で予算の取り合いをしているような情けない状況で根本的解決にはならないと思います。

現在の厳しい医療経済状況の中で最も説得力のある方法は、「移植をしたほうが、しないよりは総医療費の節約になる」ことを具体的な客観的データで示すことでしょう。そのうえ移植を受けて社会復帰する方々は若年者が多いので、社会に対する貢献は計り知れないほどであります。新年のプロジェクトの一つとして費用対効果のデータを学会で出して雑誌に載せることを目指したいと思います。

(国立名古屋病院長)

皆様、明けましておめでとうございます。

まず本年が皆様にとり健康で明るく良い年であることをお祈りいたします。

さい帯血バンクネットワークは平成11年夏に発足以来3年が過ぎ、保存・公開さい帯血は1万2000を超え、移植も800例を突破しました。造血幹細胞移植におけるさい帯血移植の存在が我が国において確立されたと思います。これはドナーをはじめとする全国の関係者の方々の血のにじむような、たゆみない努力のお陰と社会の理解の賜物です。また日本赤十字社の協力も大きな力であります。

一方、現在の実施体制の欠陥が明らかにされました。特に財政的基盤が弱く、各地域バンクの莫大な赤字の上に移植医療が成り立っているという事実です。このままでは間もなく破産して、保存を続けることが不可能となる状況です。骨髄移植についても同じく厳し

リレー
紹介⑨

福岡県赤十字血液センター-臍帯血バンク



感染症の検査

血液製剤に準じた扱い

ほとんどのプロセスが血液センターの建物の中で完結し、協力医療機関とのチームプレーが生かされていることかもしれません。例えば、あるウイルスが一般検査で陽性となった場合、直ちに別の方法による確認検査が行われます。

必要であれば、母親と新生児の保護を目的として、内科、産科、小児科、心理カウンセラーからなる医療チームが稼働を始めるようになっています。また、保存されているさい帯血も、医薬品として厳重な基準が定められている血液製剤に準じて扱われています。

この事業の維持存続に不安は残るものの、さい帯血を提供してくださるお母さまや、病院のシステムの中にさい帯血採取を組み入れていただいている産科のスタッフの方々の協力を得て、血液センターの多くの職員が、移植を受けて健康を回復する患者さんの姿を思い浮かべながら尽力しています。

1994年、日本で最初のさい帯血移植が行われた翌1995年に福岡県赤十字血液センター内にさい帯血バンク設立のための準備委員会が組織され、試験的な採取、調製および保存が開始されました。

当センターは安全な輸血用血液の確保・供給などの事業以外に、医療機関に対する技術協力の形で、移植のための末梢血幹細胞、骨髄、さい帯血などの調製・冷凍保存を

行っていた経緯もあり、その技術やシステムがそのままさい帯血バンク事業に応用されることになりました。

当時はさい帯血バンク事業に対する認知度は必ずしも高くはなく、採取協力病院を求めて訪ね歩いたことも、今では昔日の感があります。バンクの準備が整ったところで、直ちに倫理委員会を開催し、実際の作業が開始されました。

当バンクの特徴は、採取以外の